

## 平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成28年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	24人	算数	24人	理科	24人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	18人	算数	18人	理科	18人
------	----	-----	----	-----	----	-----

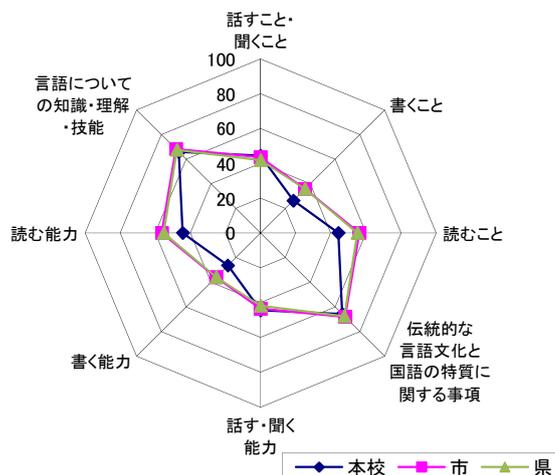
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	44.4	43.5	41.8
	書くこと	26.4	35.9	35.8
	読むこと	44.4	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.9	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	44.4	43.5	41.8
	書く能力	26.4	35.9	35.8
	読む能力	44.4	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	65.9	68.2	67.5



## ★指導の工夫と改善

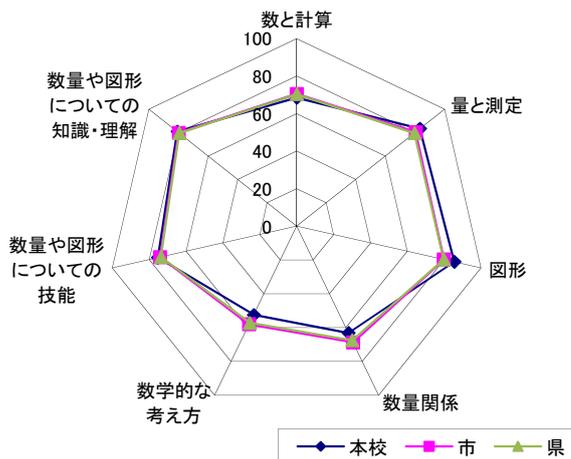
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○領域の正答率は、県・市の平均と同程度である。</p> <p>○「話の中心に気を付けて聞き、意見を述べる」ことについての設問の正答率は、66.5%で県の平均を15.3ポイント上回っている。</p> <p>●「進行に沿った話し合いをする」ことについての設問の正答率は4.2ポイントと市・県の平均を下回っている。</p>	<p>・まず、少人数の話し合い活動を進め、司会など役割を与えることにより、全員がなんとなく聞いた(わかった)というような消極的な聞き方から積極的な聞き方にしてきたい。そのためには、聞いたことに対して感想を述べる、質問するなど話す活動、聞いたことをノートにメモする活動を意図的に運動させながら、常に積極的に聞き自分の考えを話せる姿勢づくりや司会の進め方の模擬練習などきめ細やかな指導をしていきたい。さらに、全体の話し合い活動の中で、内容を正確にとらえながら話し合いを進めさせる指導を機会を逃さずに重ねることによって、「進行に沿って話し合う能力」を徐々に身に付けさせたい。</p>
書くこと	<p>●領域の正答率は、県の平均を9.4ポイント下回っている</p> <p>●「話し合いを基に、招待状に付け足す文を記述する」設問の正答率が16.7ポイントで特に低い。</p>	<p>・聞くことや読むことの指導にも共通するところがあるが、話の内容を的確にとらえ、それを基に文章を書く力をつける必要がある。また、書くことへの能力差も見られるので、短作文やリレー作文などで内容を整理しながら気軽に書く機会を多く設けることにより、だれもが抵抗感なく書くことへの力を付けさせていきたい。</p>
読むこと	<p>●説明文の内容理解の中でも、「目的に応じて要約する」設問の正答率が4.2ポイントと低い。</p> <p>●物語文で「登場人物同士の関係や物語上への役割を捉える」設問が37.5ポイントで県の平均より大きく下回っている。</p>	<p>・説明文を読む際には、目的に応じて中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けて内容を整理したりしながら読ませるような指導をしていきたい。</p> <p>・物語文では、どの文から登場人物の人物・気持ちが分かるか、また、登場人物同士の関係はどうかなど、場面の移り変わりに沿って文図に示しながら読むことを強化して指導していきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○領域の正答率は、県・市の平均と同程度</p> <p>○漢字の読み・書きに関する設問の正答率は高い。</p> <p>●国語辞典の使い方に関する設問の正答率が45.8%と県の平均を19.9ポイント下回っている。</p>	<p>・授業の中でも、分からない言葉に出会ったら、辞書を引くことを習慣づけていきたい。児童に身近な場所に国語辞書を置き、環境を整えていきたい。</p>

# 宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.5	70.5	70.3
	量と測定	83.3	80.4	79.6
	図形	85.4	79.8	79.7
	数量関係	63.1	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	52.5	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	75.3	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	80.8	79.9	79.5



## ★指導の工夫と改善

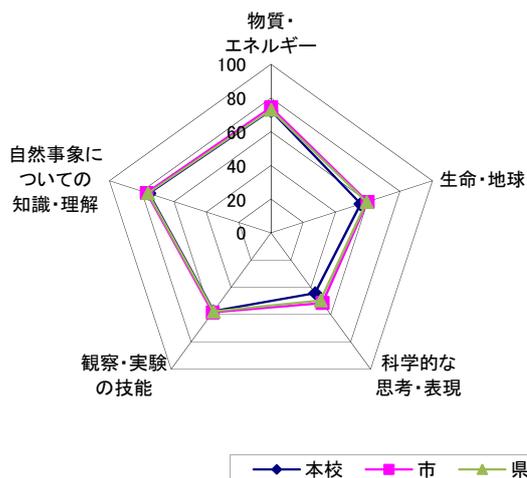
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域の正答率は、県・市の平均と同程度である。</p> <p>●掛け算の内容の正答率が県の平均を5.9ポイント下回っている。</p> <p>●数直線の目盛りを読み取り、分数で表す設問の正答率が県の平均より大きく下回っている。</p>	<p>○掛け算九九の復習や、掛け算の筆算の練習、また、あまりのある割り算の練習などを、授業や宿題の中で普段から取り入れていき、継続して学習できるようにする。</p> <p>●数直線と数を結び付けて考えることができるように、授業の中でも、「全体を等分する」「等分した1つ分を図に表す」「図を手がかりにテープ図を表す」「テープ図を基に数直線を表す」という一連の活動を復習したい。その活動を通して、分数は1を何等分かし、そのいくつかで表されていることを理解できるように丁寧に指導していきたい。</p>
量と測定	<p>○領域の正答率は、県・市の平均と同程度である。</p> <p>○「秒で表された時間を分の単位に換算する」設問では、県の平均を12ポイント上回っている。「kmで表された長さをmの単位に換算する」設問に関しても、県の平均を上回っている。</p> <p>●はかりに示された重さを読み取る設問や、およそ1kgのものを選ぶ設問の正答率は低い。</p>	<p>●時間・長さの単位換算については身につけてきているので、重さやかさの単位換算についてもさらに定着することを目指す。</p> <p>●身の回りにある様々な具体物の重さについて測定する活動を復習していきたい。その際、結果を予想してから重さの検討をつけさせるとともに、100gや1kgなどの重さについての感覚を身に付けさせていく。それが、生活の中で役立つ。</p>
図形	<p>○領域の正答率は、市の平均より5.6ポイント上回っている。</p> <p>●「二つに折った紙を直線で切り、開いてできる図形を選ぶ」設問の正答率は県の平均を4.5ポイント下回っている。</p> <p>○「円の直径を表す線分を選ぶ」設問の正答率は、100%であり、県の正答率を上回っている。</p>	<p>●実際に折り紙などを使った作業的な活動を通して、ある条件にあった図形が出来上がることを発見するなど、児童が自ら体験して発見できるような学習活動をより多く取り入れていく。</p>
数量関係	<p>●領域の正答率は、市の平均5.6ポイント下回っている。</p> <p>●「□を使った乗法の式に適した場面を選ぶ」設問の正答率は、33.3%と県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>●□を使った式と具体物、数直線、図などを相互に関連付ける学習活動を通して、式から具体的な場面の意味を読み取ることや、式を用いて自分の考えを説明すること、式で処理したり、考えを深めたりすることなど、式を使いこなせるよう指導を工夫していく。</p>

# 宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.5	74.5	72.9
	生命・地球	55.5	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	44.3	51.6	49.7
	観察・実験の技能	57.5	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	75.5	77.0	76.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○物と重さの領域では、県・市の平均を上回っている。</p> <p>●電気の通り道の領域で、正答率が県・市の平均を下回っている。</p> <p>●「磁石につけると磁石になる物があることが分かる」設問と「どのような性質を「基準にして分類したか」の設問で、県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・「電気の通り道」については、4年で学習する「電気のはたらき」と関連している。様々な導線のつなぎ方や回路の例を示し、回路として電気が通るかどうか考えさせる活動などを取り入れたい。</p> <p>・磁石は方位磁針になることや電気を通すもの(豆電球がつくもの)と磁石で引きつけられるもの混同せず、磁石の性質を説明することについては、知識として定着できるように復習しながら学習を進めていきたい。</p>
生命・地球	<p>●身近な自然の観察の領域で、県・市の平均を下回っている。</p> <p>●「観察記録をもとに昆虫を選択し、その理由を説明する」設問では、58.3ポイントの児童が正しい昆虫を選択することができている。しかし、選択した理由を説明することができず、正答率は12.5ポイントとなっている。</p>	<p>・実験や観察の結果である表やグラフからどのようなことが言えるのかについて、自分の考えを表現する活動を授業の中に意図的に取り入れていく。またその際、科学的な言葉や概念を用いて自分の考えをまとめられるように指導していきたい。</p>

## 宇都宮市立上河内西小学校 第4学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある。」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」という質問に肯定的に回答している児童の割合はそれぞれ県の平均を11.5ポイント、12.7ポイント上回っており、学習に対する興味関心や意欲は高いと考えられる。

●「家で計画を立てて勉強している」「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に肯定的な回答をした割合が県・市の平均を大きく下回っている。自ら計画を立てて学習したり、与えられた課題だけでなく、進んで学習に取り組んでいく習慣をつくっていく必要がある。授業で学んだことのまとめの仕方など、自主学習の見本を示していくようにしたい。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強している」という質問に肯定的に回答した児童の割合は、県の平均を34.2ポイント下回っている。テストを受けるだけでなく、その後の復習での活用法などを、自主学習の方法と合わせて指導していきたい。

○「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」という質問に、95.8%の児童が「はい」または「どちらかといえばはい」と回答しており、学んだことを生かして、自らの力で問題を解決しようという学習に対する前向きな姿勢が見られる。

●「自分には、よいところがある」「自分はクラスの人の役に立っている」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ50%と62.5%であり、自己有能感が低いことがわかった。互いの良いところを認めたり、クラスの中での働きを認め合う活動を学級活動や行事の中で増やし、自己有能感を高めるような工夫をしたい。

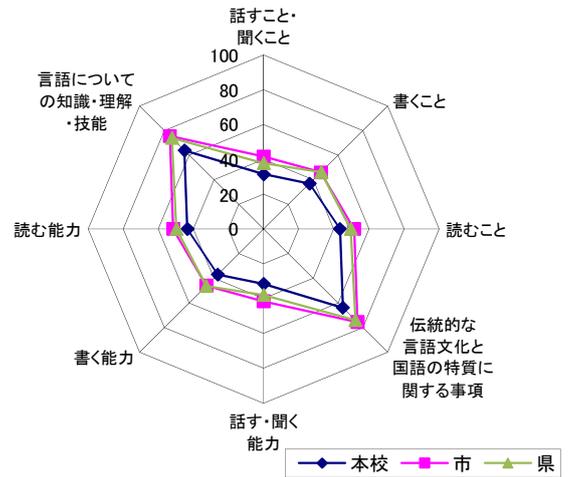
○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という質問には、79.2%の児童が肯定的に回答していて、継続して根気よく学習に取り組む意欲があることが分かった。

●「新聞を読んでいる」という質問には、83.3%の児童が「ほとんど、または、まったく読まない」と回答している。社会での問題を取り上げていたり、身近な話題を扱っている記事もあるので、新聞の面白さを伝えていきたい。また、国語の学習にも役立つ部分があるので、新聞を読んで記事についての感想を書く学習などを取り入れていきたい。

# 宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	31.5	41.6	37.9
	書くこと	37.0	46.1	46.3
	読むこと	43.5	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.9	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	31.5	41.6	37.9
	書く能力	37.0	46.1	46.3
	読む能力	43.5	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	63.9	75.6	74.0



## ★指導の工夫と改善

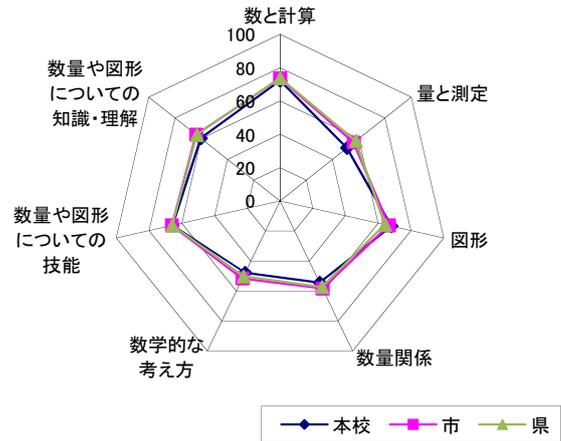
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●提案者の役割を理解し、話し合いに参加する問題では、正答率44ポイント、司会者の役割を理解し話し合いを進める問題では、正答率50%と県の平均を大きく下回っている。このことから、話し合いの仕方そのものの理解が十分ではないことが伺われる。	・学級における話し合いの場を意図的に設け、提案者、司会者などそれぞれを経験させながら、役割を理解し、話し合いの進め方を定着させていきたい。その際、まず自分の意見をもたせる。つぎに、相手の意見との共通点や相違点を整理しながら話し合いに参加し、発言する。そのような機会を多く設けることで、進行にしたがって話し合える力を向上させたい。より、焦点化させるために、友達の意見をメモしたり、感想を書いたりするなど、聞くことへの意識を高める工夫もしていきたい。
書くこと	●領域の正答率は、県平均を大きく下回っており、指定された長さで文章を書くことに関しては正答率が非常に低い。また、目的に応じて文章を要約することや、資料をもとに自分の考えを書くことにも課題がある。 ●新聞の作成の内容の問題では、正答率が37%と低く、新聞の構成を理解し、形式に合わせた見出しなどの表現方法の定着が十分ではない。	・書いて表現するという活動を日常的に行い、書く力を身に付けさせる。また、相手や目的に応じて、適切な表現を用いることができるように指導していきたい。また、日常的に書くことの中には、実用的な文章の視写を行い、正確に書き写したり、自分の書いた文章を読み直し、推敲したりする活動を多く取り入れ、相手や目的に応じた文章を書く力を身に付けさせていきたい。
読むこと	○段落相互の関係を押えて読む問題では、県の平均を大きく上回っている。 ●説明文・物語文の内容の理解に関しては、中心となる語をとらえて文章を読んだり、登場人物の気持ちや想像して読んだりすることの正答率が低く、叙述に即して文章を読むことに課題が見られる。	・説明文においては、中心となる語をとらえたり、段落相互の関係をとらえたりすることで内容を整理して読み取っていくことを指導していきたい。物語文では、登場人物(特に主人公)の心情が分かる言葉、様子が分かる言葉や繰り返し出てくる言葉に注目させ、文図などに整理して読み取れることを授業で意図的に行う。それが、個人作業でもできるよう指導を強化することで、内容を深く読み取る力を身に付けさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ことわざの使い方、主語と述語の関係については、正答率が8割を超えており、県の平均を上回った。また、漢字辞典の使い方についても比較的正答率は高い。 ●漢字を書く問題、漢字の部首をこたえる問題においては、正答率が非常に低いことから、3、4年生で学習した漢字の知識の定着に大きな課題がある。	・辞書の引き方については授業や家庭学習に意図的に取り入れてきたことから、定着したと思われる。また、ことわざについては、児童の興味関心が高く、意味調べなどを積極的に行っていたことが結果に表れていると思われる。漢字の学習については、新出漢字のみならず、既習の漢字についても宿題等で練習させていくとともに、日常生活のなかで、正しく使いながら身に付けていくことも必要である。また、部首名を覚えると漢字の意味も類推できることを意識させていきたい。

# 宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.2	73.6	73.7
	量と測定	51.1	56.2	57.7
	図形	68.1	66.5	64.2
	数量関係	54.4	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	47.8	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	65.7	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	60.4	64.0	63.5



## ★指導の工夫と改善

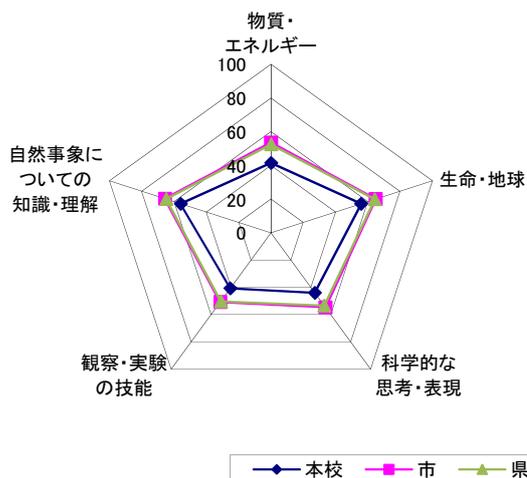
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域の正答率は県の平均を若干下回ってはいるものの、72.2%と4領域の中では比較的高い。</p> <p>●わり算においては、正答率が59.3%と県の平均を大きく下回っていることから、計算やあまりの処理の仕方についての定着が十分ではない児童がいて、個人差が大きい傾向がある。</p>	<p>・基本的な計算問題については、再度その意味を確認するとともに、家庭学習等でも反復練習を行い習熟を図りたい。特に、わり算においては、今回の設問は整数÷整数の計算であったが、5学年では、小数のわり算の学習も行っているため、それらを含め、計算の仕方、あまりの処理の仕方などくり返し個別指導していきたい。</p>
量と測定	<p>○角の大きさを問われる設問では83.3%と正答率が高く、県の平均と同程度である。</p> <p>●領域の正答率は51.1%と県の平均を大きく下回っている。1㎡を何cm<sup>2</sup>で表す設問では正答率が16.7%と非常に低く、面積の単位換算に課題が見られる。</p> <p>●黒板のおよその面積を尋ねる設問では、40㎡と答えた児童が多く、面積の大きさについての感覚に課題がある。</p>	<p>・面積の単位については、単位面積の一辺の長さを単位換算することと関連付けて、再度丁寧に指導し、考え方を身に付けさせたい。また、面積の大きさについての感覚は、日頃から様々な場面で、身の回りの物を単位を用いて表す活動を取り入れ、実感を伴って体積や単位の大きさが理解できるように指導の工夫を図りたい。</p>
図形	<p>○領域の正答率は68.1%と県の平均を約4ポイント上回っており、同程度である。垂直な面を問われる設問では94.4%、展開図の続きを書く設問では83.3%と正答率が比較的高く、図形についての理解はある程度定着していることが伺われる。</p> <p>●ひし形の特徴を記述する問題では、正答率が33%と低く、図形の性質についての理解に課題がある。</p> <p>●ひし形の作図をする設問では、61.7%と正答率が低いことから、作図の技能については課題がある。</p>	<p>・図形の特徴や性質についての理解が、しっかりと身に付いていない児童もいることから、図形の定義をもう一度確認し、定着を図りたい。また、作図については、分度器やコンパスを正確に扱うことができなかったり、辺の長さや角の大きさ、向き等が変わると描けなかったりする児童が多いため、描きたい図形の特徴や性質を捉え、分度器やコンパスを適切に扱うことができるよう、授業だけでなく、家庭学習においても継続的に指導していきたい。</p>
数量関係	<p>○分配法則について理解しているかを問われる設問や変わり方を表に書き入れる設問では比較的正答率は高かった。</p> <p>●式を読み取り問題場面と関連付けて考え方を説明する正答率は、50.0%と低く、( )の有用性の理解は十分でないと考えられる。</p> <p>●折れ線グラフの読み取りの設問では、正答率が22.2%と低く、条件に該当する項目をグラフから正確に読み取ることに課題がある。</p>	<p>・問題文に書かれている情報をきちんと読み取らず、数字のみで立式してしまう児童が多い。まずは、問題文をしっかりと読み、正確に問題場面を理解する力を育てたい。そのために、単に式・答えを合わせるだけでなく、式を基にどのように考えたのか解決の過程を検討し合う活動を多く取り入れたい。そのなかで、式は1つの数量を表せることや答えが同じでも式が違うと考え方が違うことに気づけるよう実感させていきたい。</p> <p>・グラフの読み取りについては、正確に読み取ることができるよう、問題が何を聞いているのかを確実にできるように、ポイントに線を引かせるなど、工夫した指導を継続したい。また、算数の学習だけでなく、他教科もグラフを用いて自分の考えを記述したり、説明する機会を設ける等にしていきたい。</p>

# 宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	41.5	53.7	52.5
	生命・地球	55.9	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	44.0	54.7	53.4
	観察・実験の技能	40.7	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	55.9	65.7	64.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●領域の正答率は41.5%と県の平均を大きく下回っている。</li> <li>●水が温められたときに発生するあわの正体を問う設問での正答率が非常に低く、水や空気の性質についての理解が十分ではない。また、金属についても同様で、金属の温度による体積の変化について問う設問での正答率も低く、金属の性質の理解が十分ではない。</li> <li>●「電気の働き」の内容では正答率が36.1%と県の平均を大きく下回っており、乾電池のつなぎ方や電流の強さや向きを理解が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属や水を温めたときの体積の変化の学習については、グループごとに実験を行い、その様子を観察させたが、実験の結果が知識として定着していなかったことが結果として表れた。このことから、金属の温まり方と空気や水のあたたまり方について、比較し整理してまとめる時間を再度設けていく。また、記述式の問いに弱い傾向もあるので、実際に観察した事実と「水蒸気」など科学的な言葉を関連付けて捉えられているか確認したり、学習した科学的な言葉や概念を使って、実際の現象を説明させたりする機会を多くしていきたい。</li> <li>・電気の働きの学習では、5学年でも電磁石を用いて電流の働きについての学習を行うので乾電池のつなぎ方で電流の強さが変わることや、電池の向きによってながれる電流の向きが変わることを再度取り上げ、定着していきたい。</li> <li>・学習し身に付いた知識を定着させるために、家庭学習や朝の学習の時間を利用し、復習として問題に繰り返し取り組ませていきたい。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>●領域の正答率が55.9%と県の平均を下回っている。</li> <li>●「人の体のつくりと運動」の内容では、正答率が50%を下回っており、多くの児童に定着できていないと考えられる。</li> <li>●月の動きについての設問では、83.3%と正答率が高かったが、方位磁針から月の出ている方角を答える設問や、月の見え方などの設問では正答率が低く、月や星に関する知識や操作技能の定着が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の体のつくりと運動の学習では、人の体の骨や筋肉の動きを資料を使って調べるだけでなく、自分の体を実際に動かしながら確認したり、他の動物の体のつくりや体の動き、運動を観察したり、映像や模型などを活用したりしながら、再度確認し定着するよう、体育などの他教科とも関連して行っていきたい。</li> <li>・月の動きや形についての学習では、3学年で行った太陽の動きの学習と関連付けて月も太陽と同じように動くことを確認したい。また、児童一人ひとりが方位磁針や星座早見の操作ができるよう、指示を工夫し、繰り返し操作する機会を多くもち、定着させていく。そうすれば、日頃から月や星など関心をもって取り組めると考える。その中で、学ぶ楽しさや有用性を実感できることも大切に育てたい。さらに、日頃から月や星などの観察をするように声をかけ、興味をもたせていくことも大切である。</li> <li>・学習のまとめでは、学習したことを自分の言葉でまとめる活動を取り入れることにより、知識の確実な定着を図っていきたい。</li> </ul>

## 宇都宮市立上河内西小学校 第5学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習や生活等の意識を問う設問全体において、県と同等か、県を上回る肯定割合を示している。このことから、児童が意欲的にかつ、前向きに学校生活、家庭生活を送っていることが分かる。

○教科等の学習に対する意識を問う設問においては、ほとんどの教科において県と同等か、県を大きく上回る肯定割合を示している。「勉強していて不思議だな、なぜなんだろう、と感ずることがある」「授業を集中して受けている」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という項目では、肯定割合が非常に高くなっている。このことから、児童の学習に対する興味・関心の高さが伺われる。

○各教科については、「好き」と答える肯定割合がすべての教科で、県を上回っている。また、「将来のために大切か」と問う設問では、「国語」「社会」「算数」については、肯定割合が100%、他の教科についても県を上回っている。児童は、学習の必要性を感じながら、日々の学習に取り組んでいる様子うかがわれる。しかし、意欲は非常に高いが、どのように学習していったらよいのかなど学習方法の創意工夫や学力の定着にまでは至っていないと思われるので、様々な学習方法を提示し、意欲が知識、学力に結びつくような指導の工夫をしていきたい。

●家庭での学習に関する内容では、ほとんどの項目で県の肯定割合を上回っていることから、個人差はあるが、家庭学習は着実に進んでおり、定着してきていることが分かる。しかし、「家で、授業の復習をしている」という項目については、県の肯定割合を下回っており、テストのやり直しなどは学校で行っているが、家庭学習では取り組めていないことが分かる。既習事項の定着のためにも、予習だけでなく、復習にも力を入れて取り組むことができるように工夫していく必要がある。また、「宿題以外の学習を家庭で行っている」という項目においても、県の肯定割合は若干上回っているが、同様に自主学習などに進んで取り組むことができるように支援していく必要がある。

●「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という項目については、肯定割合は県を若干上回ってはいるものの、普段の様子を見ると一部の児童に集中してしまうことがあるため、児童が発表する場を今まで以上に意図的に設定し、児童が自信をもって発表できることを体感させていきたい。